「伝えることを大切に拡がった、であいの輪」

生駒市　山口　歩さん

我が家には 2 人の息子がいて、どちらも知的障害を伴う自閉症です。長男のマオは、小さい頃からユニークな絵を描きます。3 歳で発達検査を受けたときのドクターに「この子、すごく絵が上手だよ。記録してあげるといいね。」と言ってもらい、そこからずっと彼は絵を描いています。
会話でのコミュニケーションが難しくても、絵を見ていると、彼が興味のあることや好きなものを感じることができます。

小学校に入学し、支援学級の担任の先生が繋いでくださったご縁で、奈良教育大学の学生さんとアートの展示会、てとてをあわせて「で・あいのある世界展」を開催することになりました。
絵が上手い下手に関わらず、描き手の個性や特性を理解し、障害を持つ子どもやその家族の願いをもとに福祉を学ぶ学生たちと家族が、手と手をあわせ創ってきた展示会です。奈良教育大学にて 2013 年より開催して、今年で 10 回目の開催となりました。
「で・あいのある世界展」は、知的障害、発達障害、肢体不自由など障害を抱える人たちが主人公の展示会です。発表の場があり、多くの人に見ていただく経験がさらなる創作意欲を沸きたたせ生きる力につながっていきます。

この展示会を通じて、私たち家族は多くの人たちと出会い、交流を深めることができました。
小学校のクラスメイトのご家族やご近所さん。学校の先生や、生駒市に転居してくるまでに住んでいた大阪からも、小児科でお世話になったドクターや、子育てサークルで親しくしていた友人など、これまで多くの人がご来場くださいました。中には、私が発信するSNSを見て、現在アメリカ在住の私の高校時代の同級生が、出張と組み合わせて奈良まで絵を見に来てくれたこともありました。同級生の娘さんにも　障害があり、てんかんの発作で悩んでいる中で、多くの仲間に囲まれて、息子たちの障害のことを明るく発信している私の投稿に励まされたと言ってくれていました。

以前、手をつなぐ育成会の先輩お母さんが、「私たちの時代は、仲間たちとぎゅっと手を繋いで頑張ってきた。
でも、これからは、その繋いだ手を少し開いて、理解してくれる人の輪を拡げていかなきゃね」と話してくださったことがあります。
これからも、個性や魅力を明るく発信し、理解の輪を拡げていきたいと思っています。